



七松小学校 学校だより

令和4年度
11月号
尼崎市立七松小学校
校長 中島 賀子

☆ ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>



「挨拶」を大切に思う



10月22日（土）に実施しました体育大会は、全学年の演技を一堂に会して行えた3年ぶりの大会でした。保護者の皆様には、ひと家庭2名までの制約をつけさせていただきましたが、おかげさまで無事終わることができました。次は、12月3日（土）の音楽会に向けて、がんばっています。

新型コロナの感染状況は、感染者数がじわじわと増えてくる気配があります。また、インフルエンザとの同時流行の危険性もあります。市内の学校でも、インフルエンザでの学級閉鎖がありました。新型コロナでの学級閉鎖もあります。しかし、この2年間、インフルエンザがはやらなかったのは、新型コロナの感染拡大で、いつもより気をつけて手洗い等の基本の対策をしっかりとっていたからといわれています。これからも、自分のできる対策をとって、安心して過ごすことができるといいですね。

さて、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」・・・私たちは、さまざまな挨拶を交わすことでコミュニケーションをとっています。その挨拶について、考えてみたいと思います。

「挨拶」はもともと仏教の禅宗で使われていた「一挨拶」（いちあいいちさつ）という禅語が日常語の「挨拶」になったといわれています。この「一挨拶」とは、ひとつ押してひとつ迫る、心を開いて接する、というような意味合いで、問答を交わして相手の仏法修行の悟りの深さを見るということだそうです。いいかえれば、言葉のやりとりで相手の修行の進み具合を調べる。ということになり、「挨拶」は心を開いて言葉のやりとりをすることだと捉えることができます。

心を開いて言葉のやりとりをする「挨拶」で得られるものは、いくつもあると思います。

まずは、大きな声で笑顔で挨拶すると、するのもしられるのも気持ちがいいです。朝なら、「朝から気持ちがいい。」と感じるチャンスを得て、気持ちが前向きになります。前向きな気持ちになるということは、値打ちのある一日を送ることができるということです。二つ目は、挨拶をすると人間関係も良くなります。誰かに挨拶をするということは、その人を「認めている」ということになります。お互いに認め合うと人間関係はよりスムーズになります。心を開くことは、コミュニケーションの入口です。お互いに味方であることを確認して初めて、コミュニケーションが成立します。

挨拶はその人の存在を認めているからこそ声をかけるもので、挨拶そのものが相手の存在価値を認める行為です。ですから、挨拶は、とても大切なものです。このような気持ちで、今日一日が、いい一日になるようにとの思いを乗せて、毎朝、校門で挨拶を続けていきます。